

## 「会津彼岸獅子」を伝えるポスターの提案

A2201632 渡部 早紀

### 研究の背景

会津には、会津彼岸獅子という古くから続く伝統文化がある。太鼓や笛の音色とともに、3匹の獅子が舞を踊り、春の彼岸の入りとともに春の訪れを祝うものである。踊りや衣装は地域ごとに差異があり、それぞれの独自性を持っている。しかし、年々後継者が少なくなり、継承が難しくなっているということが問題視されている。また、現地調査をしたところ、各団体の獅子団関係者が互いの団体の特徴を知らないということがわかった。双方を知らないということが会津彼岸獅子の継承を難しくし、会津彼岸獅子の文化が細部まで伝わりにくくしている一つの要因なのではないかと感じた。そのため、本研究では、各地域の違いを使って会津内外に幅広く会津彼岸獅子を伝えるポスターを提案したいと考える。

### 研究の目的

本研究では、会津彼岸獅子を次世代に継承していくため、会津彼岸獅子を伝えることを目的としたポスターを提案する。ただ知ってもらうだけでなく、各団体の違いなど細部まで表現し、興味を持つことができるようなポスターを目指す。また、獅子団関係者にも各団体の違いがわかるようなものを制作する。具体的には、明確な違いがある、「獅子頭かしら」、「踊り」の2つを要素として取り上げる。会津彼岸獅子の象徴的な部位である「獅子頭」を用いることで、視覚的に強い印象を与え、「踊り」は各団体で特徴となる振り付けや構成で違いを表現する。それにより、会津彼岸獅子の衣装や踊りの魅力を再認識し、次世代に継承していくことを目指した。

### 研究のプロセス

□前期(4月～7月)

- あいづまつり協会への調査(会津彼岸獅子についての概要、歴史、意味など)

□夏季休業中(8月～10月)

- 団体(小松彼岸獅子、天寧彼岸獅子、下柴彼岸獅子、赤枝彼岸獅子、西勝彼岸獅子)への取材

それぞれの団体にその獅子団の成り立ち、歴史や他団体との違いを調査するため、獅子頭や衣装などを見せてもらい、5団体の違いをまとめた。



小松彼岸獅子(北会津)の獅子頭

□後期(11月～1月)

- 団体への再度の取材、福島県立博物館の学芸員へ取材

学芸員の方への取材で2つの団体(本滝沢彼岸獅子、中村彼岸獅子)が活動しているということが判明。本研究の目的も考慮し、その2団体を含めた7団体のポスターを制作することに決定した。

- 2団体(本滝沢彼岸獅子、中村彼岸獅子)への調査

- 今までの取材・調査を元にポスターを制作



天寧獅子保存会への取材

## 成果物(完成作品)

現在活動している7つの団体(小松彼岸獅子、天寧彼岸獅子、下柴彼岸獅子、中村彼岸獅子、赤枝彼岸獅子、本滝沢彼岸獅子)のポスターを2種類、合計14点制作した。1つは、各地域の衣装の中で大きく違いが出ているということから、「獅子頭」を扱ったポスターを7点制作し、もう1つは「踊り」を扱ったポスターを同様に7点制作した。2種類のポスターは、用いている柄と色を団体ごとに統一し、共通性をもたせた。

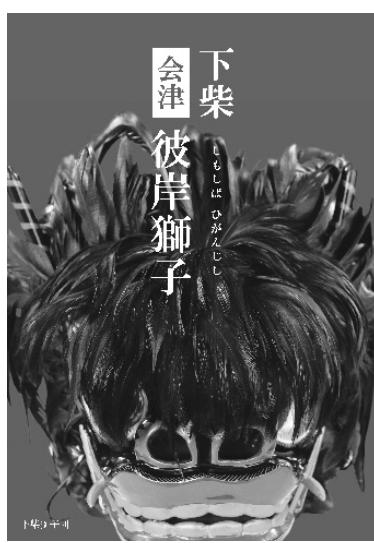
### □ポスター「獅子頭」

獅子頭は会津彼岸獅子の象徴的な部位で見た目のインパクトがあることから、見る人の目をひきつけることに最適だと思い、今回扱うことにした。団体ごとで角度が違うのは、並べてみたときに各団体の違いがわかるだけでなく、見る人が獅子頭の全体を想像できるようにするためである。背景色は日本の伝統色にし、日本の伝統芸能であることを意識できるようにした。

※現在制作中のもの



中村彼岸獅子



下柴彼岸獅子



小松彼岸獅子

### □ポスター「踊り」

踊りはその場の雰囲気や臨場感を表現するため、動きが感じられるような構成を意識し、安定感のある獅子頭のポスターとは対比になるように表現した。また、こちらも各団体の特徴になっている意匠をとところどころに用いることで並べてみたときに違いが明確になるようにした。

## 考察

会津彼岸獅子の各団体の踊り、衣装の違いをポスターで視覚的に表現することができたと思う。また、今回の伝統芸能のポスターは今までに触れてきた商業ポスターとは違った分野のものだったので、紆余曲折したものの、その中でどういった表現が最適なのかを学び、形にすることができた。

しかし、目的や考えが曖昧のまま調査を開始してしまい、何度も調査に向かうこととなり、当初予定していたスケジュールよりも進行が遅くなってしまったことが反省点である。また、伝えたい事柄をわかりやすく視覚化することによって苦戦し、改めてグラフィックデザインの難しさを感じた。